

〔アジサイ〕

わが団地への訪問客を出迎えるのは北法面のアジサイのタペストリーだ。貴婦人の姿もユニコーンもないけれど、アジサイは我が団地を象徴する花になりつつあるのは間違いない。



北法面  
北進入路  
沿い  
(6月30日)

このアジサイは北法面だけでなく、ぐるりと東法面にかけて取り巻いている。



(上左) 北法面進入路沿い (上右) 東法面  
(下) 北法面10号棟付近



北法面では植えてからまだ1～2年の幼木が目立つ。あと2～3年もたたずに成長すれば、もっと見ごたえのあるアジサイ回廊になるに違いない。

東法面は所々に固まって植えてあるが、まだ整備が追いつかないのが実情。乞うご期待というところ。

このアジサイ、梅雨時の花として日本の風物詩になっているけれど、日本古来のアジサイはガクアジサイのほう。

ガクアジサイ、北広場7号棟前 (7月6日)

これが欧米で品種改良され逆輸入されたのが法面でも多く見られる西洋アジサイ(ハイドランジア)である。ガクアジサイでは装飾花が周囲を取りまいているが、西洋アジサイは花序全体が装飾化に変化したもの。



この花の基本の色は青紫であるが、酸性土壌では青みが強く、アルカリ性土壌では赤みが強くなる。また、咲き始めの淡い緑色から、白、そして青紫を経て、桃紅色へと色変わりしていく。このように、花の色が日々微妙に移り変わるので“七変化”とも呼ばれている。実際に法面のアジサイはどんな色合いの花があるか見てみよう。



やはりアジサイは濃いブルーが映えるように思えるが。

(写真は6月30日、7月6日)

変わり種アジサイの紹介、「カシワバアジサイ」  
 葉は5～7裂の切れ込みがあり柏の葉に似ているのでこの名がある。花は円錐形の房状につく。花は白色だけだが、一重咲き、八重咲きがある。晩秋には赤銅色に紅葉する。

東法面に何本かあるので、見に行ってください。

カシワバアジサイの花を拡大してみれば  
 (写真は7月13日)



ところでここまで何気なく“アジサイの花”と言ってきたが、4枚の花弁のように見えるのはガク片で、その中心部に本来の小さな花があると言う。確認してみると確かにそれらしいものが見えるが、今年のアジサイはもう終わり、来年改めて詳しく見るしかない。  
 (参考; 、 )

長雨にうんざりさせられることもなく、例年より15日も早く梅雨が明けてしまい、連日の猛暑が続いている今年の夏に、梅雨時の花であるアジサイはどんな変化を受けているのだろうか。実は今回掲載した写真はほとんどが6月30日に撮影したもの。7月に入って改めて見て回ると、なんともう花が終わりかけているものが目立ってきている。

他の花も同じだ。団地植物の紹介の話があり、団地内を見て回った6月下旬には、ナツツバキ、シモツケ、アカバナが咲いていて、よしこれらを中心にまとめようと写真を取り始めたのだが、7月に入り改めて見て回ると、それらの花はもう終わってしまっていた。私たちと同様、花々も季節の変化を敏感に感じ取っているのだ。夏場は花の少ない季節、さて何を取り上げたらよいのか、改めて探し回った。

#### (ヒメヒオウギズイセン)

10号棟付近の北法面の市道側のアジサイの脇に、橙色の花を見つけた。

ヒメヒオウギズイセンはヨーロッパで交雑により作られた園芸植物。明治中期に日本に渡来した。漢字で書けば姫檜扇水仙となるが、水仙の仲間ではない。葉がヒオウギに、花がスイセンに似て、小型なのでこの名がついたとの事。



ヒメヒオウギズイセン  
北法面 10号棟北側 (7月6日)

この花は一度球根を植えると、ほとんど放置しておいても大丈夫で、宿根草のように増えていくという。このように繁殖力が強い花なので、今ではわざわざ花壇に植える人は少なくなったが、強い性質故花壇から飛び出し、人家の周りなどに野生化している。

この花は中央広場にも、他の場所にもあるので探してみてください。 [参考; , ,HP]

〔トキワツユクサ〕

この花を初めて見つけたのは4～5年前、バス停裏付近の緑化ブロックの下部に咲いていた。あまり見かけない花だと図鑑を調べたが載っていない。何冊か図鑑のページを繰っていきようやく見つけることができた。

南米原産、昭和初期に観賞用として日本に持ち込まれ、いつしか花壇から飛び出し野生化した植物。

葉は確かにツユクサの葉だが、花は全然ツユクサに似ていない。こちらは三枚の花弁が三角形を形成するようについている。やや湿った日陰や水辺を好む。



ツユクサ  
トキワツユクサ (写真 7月6日)  
あまり写りのよい写真ではないが、参考までに。



東法面緑化ブロック下の階段側

図鑑にもあまり載っていないのは、それほど日本に広がっていないのだろうか。特に緑化ブロックの下部に生えていたので、緑化ブロックの工事の時に土とともに運ばれてきたのかもしれないと思った。ところが探しているうちに8～9号棟間付近の北法面の上部、ナツツバキの根元あたりにも生えているのを見つけた。そして今年、法面北東角のツツジを刈り込んだ根元にびっしり群生しているのが見つかった。ということは植生ブ

ロック工事の時ではなく、この団地造成の時に運ばれてきたのだろうか。

それでは、この近くの団地ではどうなのか、それとも多摩市ではどうなのか。詳しく調べることはできないが、『多摩市の植物目録』のページを繰ってみると、確かにトキワツユクサの名が記載されていた。つまりかなり分布を広げている植物らしい。そんなら図鑑にも載せればよいのに。

なお wikipedia 記事の最後に「要注意外来生物に指定されている」旨の記載があった。

(参考; HP、 )

#### (ワルナスビ)

かなり以前から団地西側の東公園沿いの歩道の中ほどの草むらにびっしり生えていた。数年前には東法面にも見られるようになり、今年改めて見て回ると5号棟の植え込みの中に生えているのを見つけた。

一見、ナスやジャガイモの花に似ていて、そんなに悪い花には見えないが、ご用心、ご用心。茎や葉に鋭いとげがあるので注意。また有毒でもあるので注意。



ワルナスビは北アメリカ原産の害草。昭和初期に関東南部で見つかり、その後暖かい地方に広がった。地下茎でも種子でもよく繁殖し、除草剤も効きにくく、一度生えたと駆除しにくい。耕耘機などですきこむと、地下茎の切れ端一つ一つから芽が出て独立した個体に再生し、以前より増えてしまうほど始末が悪い。この草を見つけたら早めに駆除する必要がある。その場合、鎌で刈るのではなく、棘に注意しながら根元から抜くようにした方がよい。

(写真は7月6日)

「要注意外来生物」指定種。(参考文献;HP、 )



ワルナスビは東法面バス停付近のササの中にも、緑化ブロック下にも広がっている。(写真上)

花は咲いていなくても、一度特徴を覚えればすぐ分かる。

5号棟の植え込みの中にも生えていた。

〔木の実〕

まだ7月半ばだと言うのに、連日猛暑が続いているが、木々は秋の準備を始めている。葉に隠れて見えにくいですが、木々にはそれぞれ実をつけている。(撮影；ハナモモ7月9日、他7月13日)

ハナモモの実

東法面、バス停裏付近の柳の側。



一見ウメに似ているので手を伸ばしたくなるが、実は苦く食べられないとの事。残念



エゴノキの実；2号棟南側、中央広場西側、6号棟北側、10号棟西側など

5月に白く美しい花を付けたエゴノキは今枝いっぱいに実を付けている。ただし、有毒。



トチノキの実；北広場（7～8号棟間）南広場（3～4号棟間）

縄文時代から食用にされてきた。

9月に熟す。



ツバキの実；団地内いたるところにあります  
ツバキ油がとれる。



オニグルミの実; 中央広場の7号棟寄り。  
9~10月頃に熟す



柿 中央広場の7号棟寄り。  
10~11月頃に黄赤色に熟す



(参考; HP、 、 、 、 )

【参考書】

- 『大人の園芸 庭木・花木・果樹』 濱野周泰監修 小学館
- 『花の風物誌』 釜江正巳著 八坂書房
- 『山溪ポケット図鑑2 夏の花』 山と溪谷社
- 『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花』 林弥栄監修
- 『多摩市の植物目録』 パルテノン多摩
- 『山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花 離弁花1』 山と溪谷社
- 『山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花 離弁花2』 山と溪谷社
- 『葉っぱ・花・樹皮でわかる樹木図鑑』 池田書店

〔石川〕